佛說天爾波抄

五

大利
1264
五

へ5

○六倫

○可倫

べし

べしとは。俗語ソウナモノダトイフヤウナ。ものの可なりと肯結解するうべなるかの。万葉の人さらに無人しるべし。漢文にて可とつくまこのんでひとしきつかひかたり。されど漢文にて應當かどつくれば和語にあてはまりて。和語のべしは。上下のこちらのいろく應當可かどさもぐのんとそくくがめく。これまことにあるべきさだめなりしで。べしといふにあたるべき。人々おもふこと考へ考へ。れの事まで於事ある時と

[illegible]

人成。イニソウナ[illegible]ハズナ ソウナ[illegible]俗語。その句をみくらべ。[illegible]

べ[illegible]。いまゞ[illegible]。[illegible]

[illegible]。「花ちるべ」[illegible]。いまゞ[illegible]花のちるべき勢あるを

[illegible]句也。これ[illegible]。[illegible]

[illegible]。むかしの[illegible]

[illegible]。[illegible]

[illegible]。[illegible]

[illegible]句。[illegible]

[illegible]。[illegible]

[illegible]。[illegible]

[illegible]

続評　平田湖ことのうるさき杜が唯雲ふのこ
かうこいつるこかけつるこかけつるこ　支考
員　八重山　竹ちるこ　はこちかるこ　野ろ
猿　ろれこやあまりてここ　杜若
日序　いろこんふこ　ふこ　ないでめこ　其角
日序　ろ白ろ　魂の入ぎれこ　ろこ　日
続　白魚のしろろ　暗ろ　はきめこ　山蜂
日序　吾ん　ん　是赤ろ　ろ　ろ　ろ　ん　ろ
ほの人行あるこ　支考
冬　元政の草の秋も破めこ　芭蕉
ここ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ
ろれはろろろろあこ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ
べろろろろこ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ
ろろろろこ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ
続　扨ろろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ
日　ろれこ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ
春　口ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ
猿　ろ世ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ
日　この猫と猿の特ろ　柳ろ　卜宅
日　幻住庵　鳥のこ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ
員　わこ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ
猿　竹のろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ
炭　踊ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ　ろ

猿

節季いつまでのどもじぶき事よる　頓豚

日幻住記　よるの物がたりもじぶきの事　芭蕉

冬　わが祈り明ぐさの星ひとつ　荷兮

員　綾を去りうるぐりうりうり　野水

ぐ〜べりかりかりどもすてはりて世豊なる例みえぐ

○不倫

ず

むさくるしく、ぬしとつたいとき事なるべく、ぬしいたず、ずしらず言の太平盛よりつかるるほく、筆さうれいとそびりくつよくなりぬ、ずしらるるの、すやうわかりぬるめ、くあるべく再びうてぐる猿あるさ、とくぞ、ずしとて路のほどなりひ、ぬしらてひとゆふすもるもるわかり、これ五十音筆の自然のうちひかり、とうれぐだらよ

時さ、さぐもつあるくしりめすぐゆくさもはいたりかるうれあるた、伝説さ、れ、るつくぬしのくいるの毎の詞の

くいりうめ、されぐさすぐ飯クズニアルク　湯ヲツカハズニ出ル

かどつけ時さ、ずしさつされ昇さ、のずよくけて、それぐ倍

言くかさの時さ、ぐ、ずしつくぬく、さてさく、ぬしいぶきさ

の所さ、筆けさ、ずしさつるし、かく湯ツカハズニカぐつぶめく、

さの路のぐどとつ天ぬ波ありぐ、古言のずにて、ズニくいたおぐつ

りあるり、可さ、ぐ、すの字清さくいう舞さ、さくも

らるぬるなどつたわかり、ノコレハ上古　羽ナリ　それと濁音くいぐ、

不思不国のたかる事、ワガ国の考のつちゆう、いとく簡約

にくく、筆けさ、ぐ、この事、こくくいうふぐ、ぐ、

くくくくく口授さぐ、ぐ、ぬぐくあ、ぬ、ワガ国の国のぐ

猿　この蚊を銀もてらぬ不風さよ　芭蕉

同　淡樽や白鳥もうらぶ　芭蕉　白雪

同　むつうしき拍子みえぬ里かぐら　常良

炭　舞羽の糸もふるつぶ線　宇陵

猿　人くもくれず名物の梨　寺東

同　まる雨や明年弥生尋旧菴　荒蘭

荒　けさのまうびりぶる雨屋ぶ　冬松

続　涅槃像赤き布もとぶ　沾圓

荒　いく度菜ナルミニテ翁ニ逢テ　舞子

同　ゆびぐまの名くはげえぶかりと鳥　宇水

続　名月やかうき拾えば夜のうち　宇陵

荒　雑掌やゆうさぐぶ酒くらん　ホト

炭　今よ庄屋の口はかぐけぶ　宇陵

同　市中に木集ぶ富士見　桃隣

続　仙月ものく穂ぶぐぶ　仙高

炭　ものの色絶ぶ安倍の春　桂　支考

猿　うつまもの木曽塚石ぶぶ木首のうる　乙州

こづまもまつにうぐぐ。ぶぶくらつきたるんなぶぶ。

うぐぐぶぶ。今一筋の道ぶぶ。みくつぶぶのんうり。うぐぐ異美八今一筋の道をおのうち

うぐぐぶぶんぶとうぐぐ

○どぶうつく。即ぶぶの伊達ぶかうぶ也。伊達ぶイとうぶ

ぶぶうぶうり。これぶ。わぐぶぶゆうぶぶぶ時ぶ。みんのうぶ

ぶゆうぶぶぶぶ時ぶぶぶ。ぶぶぶうり。ぶぶぶぶ。宇陵ぶぶ

それと伊勢にかよりて。ぞくにみかわぢ。ぞくにてぞくに行
のもうしいかけぐるふ時の月をくるかるも。されだずと定めくるい
ぐるふんかりてこそべし。ゆくへ今一筋をとらんあるいずと同じ

瓢　なれ加減又こそ出すべひふ味噌　荷子
炭　花もよりも毛生えなりぬ家橋　其角
反　我りしぐ新酒く人のさめやすく　日
猿　蓑のあるうくみやぢ々の花　路頭
集　馬方とこぢ時雨の大井川　芭蕉
業　うぐのすこちひさい鮒をすてれば　一笑
日　つくりかくこそまれやぢ雪佛　一井
日　地ひくぢ出ぢそ人秋のりのしさく　家貞
日　ひつうと月をみる日は火を焼りぢ　荷子

月

○まぢ花まぢとうの月あり。これは信言の一イとうの月のかく
て。一イとうとうはいるぐるく。人物まくつくりひく。ワぐつくく
いくあるクり。信の一イを人秋とうくるうり。けぢとぞく
あるわく。まぢうくかりうぢうり。ぢたくくぬし。術能掛くくりるく
ぢくれり。信ソモナイハズデナイかぐるうの月あくるや　野水
○ぐくくりうの月を。まあるくくくがきまりるや

ぬ

ぬ。上のぢ。ぢくく。ずくいぢるく一脈つ
ようくぬ。ぢくびかの月のいかくぬぢるぢ月
続　くくくも栗くは渇くを空の旅　芳良
荒　精生ぬつぢくみくぬつ業ぬ　野水

炭　時をうしのおさんめ　拾遺　宇波
瓢　口上　そそいさうの時宣　四季
徒　宣海のさくも　むさくやられめ　惟然
炭　むけうなれば　人をあくやめ　芭蕉
日　淡鶯の雪　雑　捨てとなめ　宇波
日　しし　乃至　なくなる　日
瓢　かな　義めらりる　峠　誠　路通
炭　ちくしく　雨の　ふくめ　六月　芭蕉
日　壁　なたくもく　寝やめ　夕月　日
猿　ちくの　雲　抜　まくめ　おき　鳥巣
○　祝　かりやくもつ　地　これを　衣　締　へうくやくもくく　めく
とい　事　をむ　つの　月　うも　きんくくら　時の　向　すく　衣　締

の言ふ。うれこそのあはかるこの用ようけくいる茶かるあり。
名くんば。士くくらのど言楊枝といも。くらぬといすとど。
ちちがみくくくやもの。高物枝つの所へりけくこやんくくめ。
と祝くくくくくする也。仏番ようみく世平言の経締く
かうつ茶ん物とくづのらぐるぐあく。ずで古人の白抑みくくが
れ茶ん。ずくくいびのボく「ふ」なくくいびなれく「ふ」
事命などいつのまくも。いくもく理なくるや。これ時。衣締く
かくくくつ。ぐいつぐくくくくくくくくくくくくくくるるるへか
くんくくのるくくく兵いぐくるぐゆくや。くくくくくくくくくくくくくくく

炭

人の物たるものを奪ふ　野坡

日　天こうのぐこうれ沈みの家なり　其角

いづまで・さら事をとめさしにそうやく・うるの事・か

ろくこうんかとうぐ

○でしはうつすあり・これ昇ろつ一所の・ねのすこ海や・

こりたずとあるの浅海ほどと言の自花なり・上を論ずる

ずあるの差別の所・伝言のズニとつるをつ一あ・このでる

うるの自分り・伝ふ・イデとうつ・見イデ　キカイデの数し・ずしと

もずしとつうたひしきの自分り・でしねの言をて自言

言あぐ半ずすこの海浜のこにく・大うと同じ・するその地・

まれで・多位奏位のこれおの門うあく・でしうて・この・ちうき

をおくもするんうもうでかるのうろくはるるうて

しうの時の自分り・支あが昔の打原ろて八ての字と習うく

用つ事を・言ふ・あまと伝ふで・かの自艶をぐ・ふのこ八

ぐすうずうり・昇このてうの事分り・このでを数分うめ

てうこもちうれんすぐく自の艶分るぐうつ・ふ手ぐにに世の

手ふうの艶を伝ふうれうにく・言ちの貴ふういさうんのふく

き行なうも・かぐす事うすの分るうく・ふむ人まぐ・ぐて

今これを偏ずるかり

荒　棲棚の葉ふとまりでるる切隠ふ　梅餅

日　うぐうもみえぐ・烟川ふすふ　青来

日　かざりまうくかうで年ふる　柘ふ　一晶

俳　老の名乃あうまでは十雇　芭蕉

猿　修飛中ふとぐうぐすわ月雨　羽紅

[illegible]

[illegible]

音の[illegible]

[illegible]

[illegible]

月　名月や色見の松に人ちる　園水
月　ながめてみる夜ます　乃孔
月　名月や夜咲する花ます　不玉
荒　秋の雨ちれく氏よぶ人をす　望水
猿　部ちくるかぎりく　雁かる　尚白
甑　かうくよ土間とすれば蚤ほど　曲水
炭　ふとるく口上ます　椋五把　嵐雪

うれく隠世界の別すし。物のうちにつて蒙るりとゝ……
浮ちつくと時結ちり

集　ちらぶんくと花さ云ゆい　芭蕉
うれく。ちとうのりらとちくいられるり。ちくとけるちく
なくふくとうるくふかどうのとつるやデハナイノニ

モセヌコジヤニなど伝言ちいつあり。とくるとエハトエデハナ
イノニとうんあり。蒙るの別ちくをちぐ

集　かうけるちきのみるて山ぐちく汁　芭蕉
うれくかとぐうつくれるけるぐうくて天ちあり。
味ちひくつるんぐ

○將倫

ん　んとうの何の事。ちんの事ニ平ちの訛屬のなりんれちくちく
いうるぐうく。ちうれちをみナ言のお源神言のうと蒙ぐくる言を
にく。和漢ちちけ文字ちなりちく。ちくいうるぐうく。ちぐられ
ちんのうちく思ちるある形言ちなりちるぐ。伝ちくウヨウ
などうちちくんぐ。ちんとうて見ヨウ「孔りんとうちくキカウと

いつくしれば・宇治拾遺・小式部ごとの・関白殿のねくらかた
し・こ・小式部ごとの・人のこゝろ・つがねのこゝろ・ひてい
られ・声をかけく・小式部・こゝろのくるしさ・ら
うこゝろ・神のこゝろ・ひとこゝろ・事あり・いまゞ声こゝ・ものども
ものこゝろ・かのこゝろ・なんこゝろ・ものこゝろ・ひゞきこゝろ・ものこゝろ・
ん・人のこゝろ・命こゝろ・こゝろ・こゝろ・こゝろ・こゝろ・こゝろ・こゝろ・
こゝろ・人のこゝろ・こゝろ・こゝろ・こゝろ・こゝろ・こゝろ・こゝろ・こゝろ・

続　早乙女くむすんでせん　笠の紐　閑指

けるこゝ・岡柳るものの泥こゝ・ものこゝろ・こゝろ・こゝろ・こゝろ・こゝろ・
こゝろ・こゝろ・こゝろ・こゝろ・こゝろ・こゝろ・こゝろ・こゝろ・こゝろ・

続　こゝろ・こゝろ・こゝろ・こゝろ・こゝろ・こゝろ・こゝろ・こゝろ・こゝろ・

日　客あるじ　こゝろ・こゝろ・こゝろ・蓮の蜆かりん　良品

日　裾折く　（性翁）菊と客中　こゝろ・こゝろ・こゝろ・こゝろ・こゝろ・こゝろ・　花雪

炭　こゝろ・こゝろ・こゝろ・こゝろ・こゝろ・こゝろ・こゝろ・こゝろ・こゝろ・　其角

続　うぐひすの　こゝろ・こゝろ・こゝろ・こゝろ・こゝろ・こゝろ・こゝろ・こゝろ・　智月

春　須磨寺こゝ・汗の帷子　こゝろ・こゝろ・こゝろ・こゝろ・こゝろ・　重五

炭　切炭こゝ・月のこゝろ　こゝろ・こゝろ・こゝろ・こゝろ・こゝろ・　嵐雪

続　庵の中　こゝろ・こゝろ・こゝろ・こゝろ・こゝろ・こゝろ・こゝろ・　大舟

日　葛葛の名物　こゝろ・こゝろ・こゝろ・こゝろ・こゝろ・こゝろ・　李中

猿　ひとこゝろ　こゝろ・こゝろ・こゝろ・こゝろ・こゝろ・こゝろ・　支考

日　かこゝろ　こゝろ・こゝろ・こゝろ・こゝろ・こゝろ・こゝろ・　其角

春　表町ゆづり　こゝろ・こゝろ・こゝろ・こゝろ・こゝろ・こゝろ・　越人

冬　こゝろ・こゝろ・こゝろ・こゝろ・こゝろ・こゝろ・こゝろ・こゝろ・　荷兮

後

葉月や矢(イセニ道ケルサ)拾ひよせる人ごゝろ　千子

炭

うの花の絶間たゝうん閨の門　吉東

後

月アやん　うゝの隙の捨廚　日

○先こゝはうゝ事あり。ゆやめどてゝ久らゝゝなめなど。
つゝゝり。んとそどむとかくあゝ。むとかゝゝ事衣(イ)俳にくめと
いゝや。ゝれまゝ上のねたてゝうひゝどゝ。こゝゝのゝゝゝゝゝゝて
いゝゝゝゝんゝどゝ。かゝゝの例さいづれゝゝゝゝゝゝゝゝゝ日ゝ事ゝゝり。ゝゝて
ゝゝゝ時仍ゝゝゝゝ例ゝり。ゝれどゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ

冬

岩ゝゝのおのゝ書ゝゝ思ゝゝ　全五

まゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

つ時、これまをのるかたるぐ者こ、るどゝ者ふとゝ也、こゝ也
ぐ、んそ、れよ、ぜ、んゆ、ゝ、ゝ、ゝ

員　月の名うづき守つけて名づけん　野水
春　まの旅帝供かるらん　袴ぎて　荷弓
瓢　酒ぐらげるあるらかくらん　曲水
炭　金佛の細き御座をさかるらん　肖柏
猿　もあるまぐ掃かるらん　鷹の顔　旦来
員　呼ま多るらく何といつらん　越人
春　ちつらくも小松百つん牛の夢　独言
猿　ちつまつ自慢つちて逃づん　空水
員　ちつくちたが置つくらづん　傘下

此さがトイフ、疑ノカザレナリ

口　メ蔵ちちあ物らってちくらん　冬文
炭　泥染をもも流くのだちん　嵐雪

員　狐　化ちくや人のちくらん　沖人
コレモ此ヤハ疑ナリ
口　まのくれあるまくも賊ちん　胡夜
瓢　ちちくれて永幽霊の住ちん　路頭
口　毛ちくるつで毛くちくるん　山青

○列んとる句あり。これをちくるけれども、ちくれど、ちくく伝語ちり。何やのんちちむづちと、かくづちるちちづ。字を化せ出ちる句をみちり

これちと句くくで。黄昏く、丑毛平やるちん。毛ちち苔やつづ
まつづれとかちくちんちつづわづかくるれるあし。それどし俳諧
ちちちどづり。續猿蓑く「初月のロちどくくやち振舞ち
といふ句ある。此ちくちの初て。平えこれと口物なり。ちれど気ハ。

伝言かよう事あるべしとかり

○らんらんとは、らんのようなる也。これて上こんとあるの

異別とこそ言ひてさんべし

ら

この詞、らんとよびわく、はせを翁ともよみ損じる

事かなども多くあるなり。これは中ごろ古人の自指をとりがえ、

その口拍子に奇とよむがあり、とてあるうちにあるのを

別とよびかえるべきなる事一つなるべし。筆のさがの悪

さく密め、上のけざまとやしく、らんとくくたぐ事なる

こと、巳又脚結抄をかくくやるとて、古くこれを無ざるへおさ

ばしやう。こゝに詞こうげざ、らけざるとくく、らんは上て疑のやう

まさい結のかざしかざとそうくく、らんく疑の詞とうるるなり。

落撰こうくやのくくしは、はなはだ文つやくくなくくしある

をうけく、脚結抄にまくいくくれるゆてんなくくやはせぶ

どまりかも侯く、はなはだくくやはせて轉用するなり

結のけく、正第くくるくざしんくくれくくるくざひくくく

ゆがゆるぐあく。らいとうて。三字まゝ。さてれの字かあてあく。
さうてきかくらゐて。紙面りてなどく紅葉あくこゝもとあす
るかなり。らんさうみて擬とする物なふ時の詞なり。上古てあ
らそつてきなどつのさ詞。きの字のさぶるなり。俗て
も今ラレイとゝ詞あるも。さうてきやどくれど。ものされ
すくあさうつるるすくつる詞なるを。俗てサウナとゝ詞
てあるを也。但上のべ〻とゝ詞てあれども。これ
てさたがいあり。爲こて「散ルサウナ」「散リサウナ」とゝぶめ。
チルサウナからを也。チリサウナハべ〻やとゝべ。荒野員角と越
「勝とむ」のうきにたく性とゝ物あり。これく寄なるべ。「勝」
のは同じうるく性とゝどあり。これ書てのらを俗言の
はい。のうてあるとゝてを俗ある句なり

員　うこゝ俗語こゝ俗すゝ。　野水
猿　轡（セイゴ）　釣る時ものゝ　鱸つり　半殘
員　麦とてすれ別る爾れあ角なゝ　素堂
円　めぐくれもぐれてゝ生所魂　野水

このかゝ。なゝこの時ぐれるや。ゝ。ゝ。ゝ

[illegible]

集　[illegible]　芭蕉

日　[illegible]　日

[illegible]天王陵のあるべし。この次の句、朝いよいよあれどとのゐるべし

[illegible]

炭　[illegible]　李由

俊　盗人[illegible]　芭蕉

猿　[illegible]　露沾

員　[illegible]　荷兮

猿　[illegible]

[illegible]

[illegible]　芭蕉

[illegible]

○かりとはうつくしくあるのはづなり。かるかるしう拔ぐ

うづかんうつくしかるべし。[illegible]

このうづの句多し。

集　[illegible]　芭蕉

日　くすり飲むさまそれのうつぶ　日

員　綿を蓮うつるべうつうつ　野水

炭　[illegible]　少枝

日　[illegible]　少枝

猿　[illegible]　其角

荒　名月も夜あらるゝなくらう　野人

冬　月は雲れ牡丹めす人　杜國

集　蛤のいろうひあれ年のくれ　芭蕉

○くれとしつく。かれとしつぐ。その心はけふかれるにつく。下の句倫の名りのかもつく名れとかりきつくべし。李白「紫わすれて」でさくこゝろ。別かりどくんえわく生ぐるくあれとつかかいのいろのめ也。そのか。くれどくれだけまやなどうつまこの例なるあかとふるべし

続　日とさじくれどとげうかる岡　芭蕉

けん　これまこかしんとう詩のうまる也。うくんハくあくんのはぐうまる也。ほ也にくてつるもの事かれど。上古くハ用れくん

いちどのくんかどよりり。中世すでに。いづれ言くんなどよりくこと。その時ちえてよりぶび。これ文章倫のらの名んとハこくかる詞かり。上のくれ。この名れも。章倫のらの。くん名りなどくて。上のくけどるこどつけるくこ変詞かるるのばさくるべし。これワど上又そどくくく用のとびどるのにて。古事ことどるこ事かり。時結物をとてくんこワどべし。集中例多し

うり　うりくく。とあるのはどまれる也。氏身のうらとぶやるうり

こ浪ぎどうこぶ。ものくまくすくるぎ例なり。文章ままま

例こゆる詞りり。源氏物語桐壺「こくある時く行うあるく

くどうげありどうれうく。はくるをどはめずてらあるとハ

くうりり。氏身とおやるうり。てあるのはどまれるくく。上のくけ

ゆうもてなり。よくゆいつりんで。集中例てゝず

ゆり

このゆりえ。こゆのつぐるるなく。那利身こゝぐやるゆり

ゆえことなり。奇ゆえやゞてこゆゆりえゆゆゆゆゆゆ。「もゆもゆゆゆ

にゆゆゆゆ菊ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ。俗言ヨジヤノジヤなどゆゆゆゆ

ゆゆゆゆ。御結ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

続　守持のゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ　手角

荒　楠もゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ　景茂

日　杉のゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ　荷芋

続　ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ　小茂

様　洋ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ　吉東

日　何ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ　日

日　馬士のゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ　史邦

続　月利ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ　馬覓

日　ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ　如真

荒　ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ　筆卜

日　ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ　也軒

日　ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ　利言

日　ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ　四水

本　ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ　支考

農　枝の葉の雨ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ　芭蕉

日　ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ　里東

瓢　つゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ　也軒

員　ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

此上ノゆりハ此例ナリ。下ノゆりハ那利身ノゆり

ナリヨク味ハヒ知ルベシ

猿　加茂の明ろくよ社なり　芭蕉

炭　小栗と舞く片言ばてあくしなり　基角

同　蛭魚のうほ手口なり　嵐雪

同　播の玄初手うく注くあくれなり　野坡

員　ろろろは　ぐ　ぐ　ぐ

猿　[illegible]　枝なしんちる　猿　丈草

員　やゝ　初秋の　[illegible]　野水

冬　冬[illegible]納豆　[illegible]　日

日　[illegible]（ヒミトイフ山ニテ　ヤセニコカレテ）　去来

炭　草[illegible]　鼻の[illegible]　基角

俳　[illegible]相[illegible]　[illegible]　風流

冬　[illegible]の[illegible]　賢なる女　[illegible]　重五

猿（幻住記）　[illegible]　寺の[illegible]　芭蕉

日　小刀の　略又なる　細工　箱　半残

瓢　唯四方　なる　草　庵の　蓑　洒堂

炭　奈良[illegible]　[illegible]　[illegible]

俳　飯積[illegible]　面積[illegible]　惟然

炭　[illegible]　[illegible]　[illegible]

猿　すゝ竹の木の末にのこりの雪　志賀
員　年くれぬるまであるうぶの水　傘下
冬　冬の夜の月のけしきのけしきなりけり　芭蕉
瓢　風呂の加減のまぶしうのこり　昌俊
猿　ひとりぐるまぶとみくん蓑集のすゝぐるあり
幻住記　ゆくゝ
荒　灯ゆうすゝかりの柳の中　汐雪
日　いちくんの男なくしんかまんだく　一井
春　まの旅帝俳諧ゆくしん　荷号
猿　とめるまぐくるまかくしん蓑の夏　昌葉
徒　弓因とるはかりまや　義だうか　支俵
員　碑ざかの水のゆきくるれや　傘下

春
一夜こゝろ宿の馬うま寺ゆくれや　昌俊
猿　ひだりめく小田と土ゆけばやや　孤屋
日序　このゆれまくれくすべき　時ゆれや　其角
荒　鈎陸草たゝつけるゆくるべ　徒人
員　八重山吹ゆくゝ　ゆくつかるべ　昌水

○去倫

[illegible]

これゝ同めゝとゝ裝かゝをゝでめく脚結ゝゝゝるものゝ也。[illegible]
くゝ。ゝゝ[illegible]ゝゝかゝゝゝ

河ゝいりわくのすし。ふくべ「すうめとつく」は去倫なり。「ふらめとつく」不倫のめしなり。「きうめとつく」去倫なり。「きうめとつく」不倫なり。これらにくらべて。上の字。去倫なるを伊緯とけ。不倫なるを阿緯とくらべのようにつくれるなり。コレ伊緯阿緯ノ義ニヨルコトナリ。

コノコトコヽニ委シクイヒツクレガタシ

去倫にして不倫にくらべしなるは。ふぐのこと。去倫の時は。上聲にいひ。不倫の時は。去聲にいひつくる。俗語にして平上去入のあるべきなれども。いまだしらざるなり。

この四声。ワガ國にくらべて平上去の三声だにくらべ。入声はなくなり。この三声だにくらべて。いづれも義ありてつくるべきなり。これらのハ音義をまぎらかしくらべ。かゝるものをもてはやすなり。

かゝるものとくらべて。自然とその事ゝとなるべく。去倫不倫をわうくまれど。つゝまやかにて。よくやすらぐべき事あるべし。

くらべつくべー。去倫めしとつくべく。ふくのみ事の。ひらはねのごとくなるとつくなり。この義なれば不倫にして去倫にもなるべきなり。

荒　ひとつ服くらうはつ初めて初ごく　芭蕉

この句。打消の助詞の助詞をとられたるなり。すべて世の人の衣ごとく事なりしかれども。これにて初ごくはすべてのものとなり。打消の助詞の助詞をとられたるなり。世人のしらざるなり。このめのんとく。今ものくみるべく。うつゝ貫ぬきとも。もと二物なるべ。そのうつゝよりくれる初ごく。今世にいへるてゐるなり。

なるべ。二物のごとくなるものなり。これ所詮。

我曲をうれにく衣ぐ〳〵をすもせられぐし・垂人いするさめら宗
とゝなもやん為のめ・ケり・ら〳〵で壁をめるこゝ・ふ・その壁下地
土ゝゝ別にてあるしぐ・その壁下地・土のくひあしくひろ掛と
なるゝ口ぐゝとすゝるのをのぐぐ・そしでせゝ年のめゝのゝくいん
ゝゝゝ・ゝ漆くて・ゝるまゝの国やぐきのやぐ

続　十国ゝも小粒ゝなりめ秋の風　許六
同　うの歌をゝるめゝのみゝ梅九月　支考
同　潮ゝ寝所出るめ年の中　土芳
荒　庵の夜もゝぐゝるめすゝば　嵐雪
同　嗅嗅ゝぐゝるのあゆめ花豊　荷兮
同　このゝゝ小粒ゝなりめ四月雨　当白
同　肩付をいゝゝなりめのぐゝや　冬文

同　ゝゝぐゝて一矢　桔
続　里〳〵の姿ゝゝめ反木立　野萩
員　川ゆゝも高きゝめ冊ゝくゝ　施梧
猿　ゝゝ面や砂根の小草ゝ花ゝゝめ　青虎
同　栗柳とめぐゝめ初月夜　米残
瓢　羅綾のゝゝゝぐゝすゝめ　正秀
炭　さゝゝぐれ（タビヨノ比）の白ゝ撥ゝゝめ　野枝
春　あゝゝ折ぐこれ紙ゝもみゝゝめ　野ゝ
冬　月ゝゝめ秋の日瓶ゝ酒ゝゝ日　黄蕉
員　ひゝゝをつけ雪するい張ゝめ　荷兮
猿　木瓜蒔張ゝてゝゝく野ゝめ　山店
同　雪の羽もゝいゝゝめ初しぐれ　玄果

日　　尚白

春　初雪のあしたこずゑ月の雨

日　　冬文

　　この巣の樟の枯枝に鳥入ぬ　凡兆

いづまとまるらつづくくんづべー・白くさの雪をとるとてふ

ゆくすゑのこづゑ・この野枝が白の・八さよすぐれ蝶の白く枝をぬ

といつるを・旅わて雨ふれぬ・ひじをとゝ・傷て白ひ

くるのゆきいろとめとまりひめて・白ひきもて即寒るて・ぬ

とりつなぎくわづ雨ふれぬ藤のうちをなれをなれをなるること

こはせのんのをとづめこうひづうし

○ゆくとつるく・いづまを消かるぬてるを寒るなり

荒　　尺ぐりうやたるをもる柳うか　小春

炭　　すけるる伊蒙の鶴のそげうを　五湖

鼎　　うこわく雑の夏ハきりめる　芭蕉

るといつるをすぐくちるつなぐるなど・ひきをる何をきすめ

かり・これを・ちとひつるをとをまつ後・そのゆのうをつけか

ゆくまるをををみする何かり・まねぐうれるも・ぬをつも

るをとをのうをれをつけうくまるををんんうをぬ

るくいかり・なるつるくるなど・ぐをを同ぐくこの例かり・

このかて・つるぐうたるくめをとりみをを柳のうちのをみう

ぐをくめるとををを・又ぬるぐめうんををかこい

してはうかり

○かいをこのあのかをるかり・こをくぬいて宗緯なるを・何

緯をなりてうかり・をの知く・をぐめうり不をいひるぐを

をくうをうをぐ・めをいのををの事・沢在をなり・をいをぐむう

荒

猿

侵入るだものの門きせよ苑の下　野水

らんらんあぐ我場ぐるまけちらぐぎ子　奥の

今宵入ることつづで・ものつづ・どうと侵入ってい分れ

つづきなり・又今宵死なん・えってぬとらづ・とうと忘れた

ことを・えってるらづ・いづまとうとうとるらんぐ人角なるかと

おとらつて

○にとつも世ぬの伊佐ぐがとむるあこれとめとつ場とぐ・

かるこのらとうとるるとつ河なり・ものとつつ仏れど・おいむつて・

るのぐらめあとなるくあるぐひものとてつづらぐり・みづ川ぐ

まんこるこるりこるこ川川にるるぐ川川にるなどつるこ時法と

源こつつみなり

荒

拾員

冬荒

日

日

日

日

日

日

続

羽織い紙の入こまり　野水

なりりり

集　張鳥　古巣を掃て　芭蕉
続　夫講　鳴うて　樵　芭蕉
同　うぐひす講　鶯も　鴨　如舟
荒　笠をうゝく　くれ　菩提　古梵
同　鳴くりゝ　ふべんの寺の　紅牡丹　一井
続　さゝく　張つゝ　くぐされ　素男
春　朔ぶちて　まゝ　一　うぐ　京
炭　うぐひすは　一　おゝ　入　羽半
猿　ぬぐさ　年貢　猿　一　鳴　古来
炭　年貢　すんざ　ほ　古蕉
春　笠白く　太　麥　發　鄙水
炭　ゝ北掃　陰　て　桂　鄙水

猿　焼　家ヲヤキテ　仲秋ノ夜ヲ送葬シテ　少枝
同　ゝ多夜の月も　ゝ　ゝ　ゝ

いかなるごとく、一旦あの事をあやまりそうするはの用をれ
だ、これをぬるとあるものなるにはこうはるんかたり

炭　人の物をぬすびぐ　楽ふ　ものぐろ　四段
日　果こうのびごこそ　ぬすびかり　基角
日　ものしくよさしたそろくびで　桃の花　四段
素　かりて　先ようなるとしのそ　蕉桜
集　酒のめびごとびわるれねよるつ雪　芭蕉

○来爺

き

ぬしくすびく　うるさく事と待る　詞なり　けあて伝ことコト
デアッタ　タなるとあるよめるかたと　ぬかしもびあるとしかるか
ものかりとびりにくも　引とみ　青のかくあるし　くらくらそ

俗よキトキイタ　キトユカウなどいふキの字はびく　ちうとあう
しるうかり　これ加伎久計古の青茅なれども　この所ハ
つるにのりしるる　人ものびらるびく事あるけようよ
初かりとものび

猿　ものびれまやるびるろ　鄭ノ舟　千那
きとまそよ　ぬやまれ　ぬきざりれてきうりきなどつの伝
うみかり

けて

茅紫よ来の字をクリとるとうるびく　きのけてかしてて
の字をひるる天ふ波かるるの用うかり　そのかて茅まる　ぬと
つよひしき　初かり　それびきて保締の青　けく保締の青かる
うて　ア来の字をうそひそれびるびうの　けびるく　ぬくたび　五月

うこのものゝふとかあるべきの詞なり。くうくとの
地とかくありしとゝるべきをゝゝゝ

員　ちびき杖を女夫をり　落梧
日　うめくき鮎うるかりまるのち　舟泉
猿　炭竈に多負の猪代倒まり　凡兆
瓢　一貫の銭出りかへ　曲水
俤　嫁入れ門もるり祝ぎ　許六
猿　都にも仮まどりもり角力元　去来
員　庚申である軽帷を洗ぎり　一井
炭　黒ぎり沖のぎらぎのゆふ野　丈草
瓢　浪ぐぐり供乃さみれ　踊
春　毋このふ牧に雪れのうの　丘芝
炭　梅ぎぎ二夕月ぎりつれぎり　利平
員　蒜ぐ桜香に遠ぎりの　嵐蘭

炭　赤みその口沖明りり梅の花　陸刀
日　うめ咲く河毋のぐれ赤り　利平
日　四百のりけ二歳ぎりり　野坡
猿　三日月蓼のあぎ沖かりり　之道
員　桶のぐ毋いれ仕ぎ　畳
炭　菊ねれ小沖鐵りり花ぎり　嵐雪
俤　庚申ぎ毋ぎこ女房ぎ　沾圃
猿　庚汁桶の東ぎりり砂りぐ　凡兆
員　ぎぐ融ぎのぐれりれ　傘下
炭　ゆの原あぎぎ原ぎのぐり　去来
春　四ぎ持ぐ花る里に生れり　羽笠
俤　賜して陸出ぎれりぎぎ梢　去来

炭　[illegible]　[illegible]
猿　木屋ぬぐ　木節
同　みづくく　半殘
貝　[illegible]　荷弓
炭　芋粥の縁へ　荊口
瓢　越路　芭蕉
荒　[illegible]　路芋
同　[illegible]　野水
同　[illegible]　又枫
統　[illegible]　本舞
荒　[illegible]　鈎吾
猿　[illegible]　文章

荒　つ[illegible]　一井
同　すど[illegible]　蕉堂
同　ひ[illegible]　[illegible]
同　[illegible]　[illegible]
同　雪の富士　[illegible]
同　すど[illegible]　[illegible]
同　年男　[illegible]
同　湖の小[illegible]　[illegible]
統　竜[illegible]　[illegible]
荒　[illegible]　文章
同　枯[illegible]　荷弓
同　さ[illegible]

同　一笑
同　陳風
同　杜岡
同　杉下
続　馬蓮
同　為有
同　馬蓮
同　杜岡
同　芋
荒　二丸
同　拙假
続　

牧のやもりく澄のうつとりくり
ほくまぶ沢（アル人ノ餞別ニ）隈　わきてくわつたくり
ちる花くりくぶ（高野ニテ）さ　卵くり奥の院
九毎く長（タケ）くぶくり　芽つぶ
菊畠　ものあ庵とにぶつくり
岡栗の枯らく花くり　石佛
沐ちくき　乾鮭雲とまめくり
京の名　梅檀の　ちれこぶれ
ぶくぶれん　くぶくり　ゆすぶ
くらくあく　菊つくらくとうくり
ゆぶらくくり　つくやくり　日傘

○くりくれ（有倫ノけれ　二ヘガハスベガラス）くりなどかくくてはう事なり。
まる。ふくりてぶくりなくりぶくりかりくりなど。行さらく
ふ結をつぶくもつうかりう。くくくくを梅ふみくり。くりくふ
吋く。るの字字佛なまぶ。くりくのぶぶくくは吋社くくふ
いんかり

猿　蓑虫く茅の花ゆくとくれる　猿雖

この句など。くりくふくぶ。くもくなくかくいんくなり。くる
とふく。吋りの茅のとひゆくとくれるのようと活して。も
ふくくれくくとゆくくんのんくゆぶかくなりくふるゆくくれ
とくれくるくくとくつぶぶのんくくくぶ。寺にる。くりと
いふぶく訓とぶ。かくくくくいうくてよみくふ寺ゆくきゆのくふる
天竺陸のんく同くくくくぶれぐ東ひがくふ事なり。んふくんくく

くるくるるまでに。かるるくるまでに。古人の句に蓑
白もくるくるるがごとくこの時肝をみるべきあるべきこと
う。生涯口拘のよのうるまに年にくくたる事ふてあるま
きまかりしぞや

甄　ひとりある子　矮鶏（チャボ）かへる　海頭
猿　三里ばかりの道こうへけり　素堂
冬　高くるをゆくてぞと敬る　杜国
炭　よもぎ尼の物語とおさへける　乙由
猿　ゆくまつ（今俗も惜春）は迎ひのこゝろをこうる　芭蕉
日序　伊賀舟にくる山中にくくい　其角
荒　すらぐてぞをこる酒の間　日
甄　くひものつくてうれぐれ　海頭

くん

くんとくん。ぞ言くるよりうつまる詞なり。ぞとまりうつ川
移るけるなくくひいあく。ぞさくるる事をくさる詞なり。前案
ぞのくえのくくくみぞ。こぞ来くくとつぐまるのるぐく。ぞけ
しくみぞのくあるのなるぐあくんくくくとと掛結物のく
くるぞくれるぐぐし

員　なくく事をぞくくん数をかの数ひ　落柿
荒　名所の物責きくく折くくつくしがを　永案
集　強金（ヤイ）つきくく出けんくん鶏　芭蕉
荒　すぐくくし山や寄くくん　一歩
猿序　くくるくく新物のなひとさけびくんを　其角
日行住記　むくく信くくんくくくくくくくくくく　芭蕉
拾　播くくんやくくの菓の本ぐくくの秋ぞぞで　日

世句除ラシキ天布波ナリ。くんやノやノ字ハ疑テ。をくんぞやつくんトイフベキヲ上下ニナシタルナリ。

くんうをくんぞをくんかどぞ。わさもくゝる御結をつるてをつて

く

くゝもくゝる歌をもあり。「うゝぶれてく」「人のゝふく」などゝれや。「れも」「きとらをもいふてくゝ」「宮律の字」をすぐくゝるの事法則するかたり。この詞をもくゝ裝かれど。上文裝持結の別をとゝやゝぐゝく。「れゝも裝の御結」なれわくゝかたり。

集中一例みゝず